

大阪信用金庫の新店ビルの建替え

ポイント

- ▶ 大阪信用金庫は2025年11月、旧本店の跡地に新店ビル（新店・本部）をグランドオープンした。
- ▶ 新店ビルは地上9階・地下1階で、建設コンセプトである①ひと（役職員）、②地域（お客様）、③地球（環境）に寄り添った機能・レイアウトを有する。
- ▶ BCP対策や健康経営の実現に加え、職員間のコミュニケーションを活発化させ、職員エンゲージメントと業務生産性が向上するような工夫を凝らしている。
- ▶ 新店ビルに対する職員満足度は高く、また地域からの期待も大きい。同金庫は、今後も同コンセプトに沿った営業店のリニューアルに取り組んでいく。

1. 建替えの経緯

大阪府大阪市に本店を置く大阪信用金庫（図表1・2）は、2025年11月、旧本店の跡地に新店ビル（新店・本部）をグランドオープンした。同金庫の旧本店は建築から50年超が経過しており、南海トラフ地震などに備えたBCP対策が求められていた。そこで同金庫は旧本店ビルを解体のうえ、跡地に新店ビルを建て替えることとした。ここ数年、工期の遅延や建設コストの高騰が社会問題化しているが、同金庫はファシリティマネジメント会社による期中管理を徹底するなどし、建設コストのコントロールに努めた。

新店ビルのコンセプトは、「この街のホームドクター」としてひと・地域・地球に寄り添うことである。具体的には、①ひと（役職員）に寄り添う「働きやすい」新店、②地域（お客様）に寄り添う「ひらかれた」新店、③地球（環境）に寄り添う「脱炭素」に貢献する新店の実現に取り組んでいる。

（図表1）同金庫の概要（24年度末）

本店所在地	大阪府大阪市
創立	1920（大正9）年2月12日
預金残高	2兆5,353億円
貸出金残高	1兆5,863億円
店舗数	70店舗
役員数	1,370名

（図表2）新店ビルの外観



（備考）図表1から5まで信金中金総研作成・撮影

2. 新本店ビルの概要

(1) 概要

新本店ビルは地上9階・地下1階で、延べ床面積は1万621㎡である。1階が本店営業部、2階が職員食堂（D-cafe）（**図表3**）およびステップガーデン（D-feeling）、3階が大・中会議室、4階が役員フロア、5階～7階が本部執務フロア、8階が200人収容可能なホール（D-hall）（**図表4**）、そして9階には職員向けワークテラス（D-terrace）などとなる。同金庫の新本店は日本最古の仏教寺院である四天王寺の近隣に位置する。そこで落ち着いた外観に加えて内装には同寺の格子天井などを採用した。

(2) 特徴

同金庫が新本店ビルを建替えた理由に南海トラフ地震などの災害発生に備えたBCP対策がある。新本店ビルは免震構造を採用し、2回線受電（本線・予備電力線）や非常用発電機、オイルタンク（72時間分）などを備える。なお、2階職員食堂は災害などの発生時に地域の災害対策拠点として開放可能である。また環境対策の面では省エネルギー・省資源を目指すホールライフカーボン（ライフサイクルCO2）としている。

3. コミュニケーション活性化策

新本店は職員間のコミュニケーション活性化を図り、エンゲージメントと業務生産性を高めるための工夫を凝らした。同金庫は「健康経営宣言」を実現するべく、各階を行き来できる執務フロア直結の内部階段を設け、2階の職員食堂も充実させるなどした。

併せてIT・DXを十二分に活用することで本部執務フロアにはグループアドレスを採用し（Wi-Fi環境によるモバイルPC採用など）、また各階にコミュニケーションスペース（**図表5**）を設けている。

4. 今後の展開

新本店ビルに対する職員満足度は高く、また地域からの期待も大きいものがある。同金庫は、今後も同コンセプトに沿った営業店のリニューアルを進めていく方針である。

（図表3）職員食堂



（図表4）8階ホール



（図表5）コミュニケーションスペース



本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。